

図書紹介

『私が原発を止めた理由』

二〇二一年三月刊、旬報社

B六判、一六七頁、

一三〇〇円（税別）

樋口英明 著

三・一一後初の原発運転差止め
判決

樋口英明さんは、裁判長として大飯原発3・4号機の運転差止め判決を下し（二〇一四年五月二一日）、翌年、高浜原発3・4号機の再稼働差止めの仮処分を決定し、運転を止めました（二〇一五年四月一四日）。

一七年に定年退官され、一八年に大飯原発運転差止め判決が名古屋高裁金沢支部で破棄されたのを機に、全国各地で原発の危険性を訴える講演活動を行いました。本

書は、それらをもとに、次の三章から成っています。

一 なぜ原発は止めなければならぬか

二 原発推進派の弁明

三 責任について

「本書の目的は原発の危険性を誰にでも理解してもらえるようにする」ため専門的な話は少しにして本質的な事柄を図や表を使って明らかにします。

原発を止める理由—以下引用

第1 原発事故のもたらす被害は、極めて甚大である。その被害は我が国の存続にかかわるほどである。

第2 それ故に原発には極めて高度の安全性が求められる。

第3 地震大国日本において安全三原則が強く求められる原発に極めて高度の安全性があるということは、原発に極めて高度の耐震性があるということにほかならな

い。

第4 我が国の原発の耐震性は極めて低く、一般住宅よりも劣っているため、平凡な地震によってさえも危険が生じる。

第5 よって、原発の運転は許されない。その耐震性の低さを正当化できる学問的根拠はなく、原発の運転を続ける社会的正当性もない。

福島原発事故から学ぶ

樋口さんも三・一一福島原発事故までは我が国の原発の安全性に疑問を持っていませんでした。しかし「本書における原発の危険性の話は、すべて福島原発事故を出発点とし、そして、そこに戻ります」と。

その事故では、安全三原則・「止める」「冷やす」「閉じ込める」のうち、核分裂反応を「止める」には成功したが、電源喪失によって「冷やす」に失敗し、そのため

「閉じ込める」にも失敗し、大量の放射性物質が外に出てしまい、一五万人を超える人が避難し、福島県では二〇〇〇人以上の震災関連死を出しています。

福島原発事故の奇跡

1、3、4号機はいずれも水素爆発がありました。電動でも手導でもベントが不可能だった2号機は、メルトダウンにより三月一日朝、格納容器爆発の危機にありました。吉田昌郎所長は、死を覚悟し、「東日本壊滅」の語が頭をよぎったそうです。2号機の格納容器に欠陥があり、圧力が漏れて大爆発に至らず、東日本に住めなくなるのが避けられたのです。

4号機も奇跡で救われました。

定期点検中でウラン燃料は使用済み核燃料貯蔵プールにあり、三月一五日には水が干上がり大量の放射性物質放出の危機に直面しました。点検作業のため隣の原子炉ウ

エルに特別に水が張られて、仕切りがずれて水がプールに流れ込み干上がり免れたのは、工事の遅れで偶然に水が残っていた幸運なのです。

第一原発に免震重要棟が無かつたら、「東日本壊滅」は避けられなかつた？ 吉田昌郎所長は、放射能が遮断され、免震構造を備え、自由に人が動けるその建物の中で指揮を執つて、応急の対策が出来ました。

免震重要棟は、二〇〇七年夏、

柏崎刈羽原発を襲った中越沖地震から生まれました。耐震設計基準（基準地震動）を遥かに超える地震によつて原発施設に三〇〇〇方所を超える損傷が生じました。泉州裕彦新潟県知事は、東京電力に「地震に襲われた場合でも対策を執ることが出来る免震設備のある建物が必要だ」と強く求め、柏崎刈羽原発に建設され、福島第一原発にも三・一一の数カ月前に完成

したのです。

その他の奇跡は、気圧配置でした。三月一五日は放射線量が高く、屋外作業が不可能になり、危機でした。昼頃に突然、放射線量が落ち、作業が可能になりました。原発事故によるブルーム（放射性物質を含んだ雲）は、地上をなめるように進み、風が太平洋に向かいトモダチ作戦で来ていた空母上のアメリカ兵士が被ばく。

原発の基準地震動

原発の敷地を襲うと想定される最大の地震の揺れが、基準地震動です。柏崎刈羽原発の建設当時のそれは四五〇ガルでしたが、三・一一当時は耐震性補強により一、四号機は二三〇〇ガルに、五、七号機は一二〇九ガルに修正。

大飯原発は、四〇五ガルから七〇〇ガルに修正され、裁判では七〇〇ガルで安全かということが争点になり、樋口裁判長は運転差止

めを決定しました。大飯原発敷地には七〇〇ガル（震度6）以上の地震は来ないという、被告側の主張は非科学的と断じたのです。

強震動予測を含む地震学は、第一に観察できない。第二に実験できない。第三にまともな資料は、二〇〇〇年以降の二〇年分しかない。それにも拘らず、電力会社は「これ以上の強い地震は来ない」と将来予測していますが、最近の二〇年分の資料からも、四〇〇〇ガルを超える地震が記録されています。

原発は二酸化炭素を減らすか

原発推進派は、地球温暖化に対して原発はCO₂を出さないから有益と主張。実はその温暖化の最大の一つが原発。原発のウラン燃料は大量の熱エネルギーを出し、その三分の一が発電に、三分の二は海に捨てられます。一基あたり一秒間に七〇トンの海水を七℃温め、「海あたたため装置」と称され

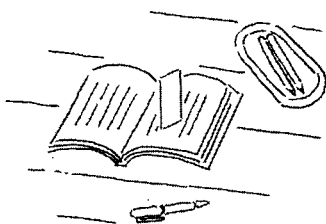
ます。

原発は、発電時にCO₂を出さないが、建設には一基あたり五〇〇億円を要し、鉄とコンクリートの塊で、その建造過程でどれだけのCO₂を出したか想像できないほです。さらに

原発稼働後の後始末にも、使用済み核燃料の数万年にわたる保管費用など、いずれもCO₂が膨大に出ます。

三・一一後の私たちの責任

原発は原子力基本法（一九五五年）や電源三法（一九七五年）に基づき建設されました。それを進めた先人たちより福島原発事故を経験した私たちが遥かに重い責任を負い、原発を止める道も知っています。「すべての原発の即時停止を求める国民が半数を超えれば必ず全ての原発は止まる」「原発の問題は、我が国が解決すべき最優先かつ最重要課題です」と。



（所員・よしだ たけお）